

小平図書館友の会 会報 40号

ネット公開版



発行日 2018年5月15日
 発行者 小平図書館友の会会長 剣持 香世

ブログ <http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kltomonokai/>
 連絡先 ブログ掲載のメールアドレスへ

もくじ

なかまちテラス3周年を迎えて …… 1	学習会報告 …… 7-8
小平図書館友の会は20歳!! …… 2	声に出して本を読む会
小平図書館友の会の歩み …… 3	読書サークル・小平
第20回チャリティ古本市 …… 4-6	図書館について学ぶ会
記念講演会予告(6月30日) …… 6	YAを楽しむ会
	図書館協議会報告 …… 8

なかまちテラス3周年を迎えて

仲町図書館長 中山 誠

なかまちテラスは、仲町図書館と仲町公民館の複合施設として、平成27年3月14日にリニューアルオープンしました。建物の基本設計は、建築界のノーベル賞といわれる「プリツカー賞」を受賞された妹島和世(せじまかずよ)さんによって手がけられ、外観はもちろんのこと、テーブルや椅子に至るまでデザイン性の高いものになりました。このため、オープンして以来、行政関係者から建築関係(学生含む)、海外からの観光旅行者に至るまで、視察や見学に非常に多くの方々が来られました。このように、なかまちテラスは、小平市の観光資源のひとつとしても注目されてきました。

また、なかまちテラスはオープンする前から「みんなで作るみんなのなかまちテラス」をコンセプトに、「なかまちテラス LINKS」という協働事業を行ってきました。公民館・図書館の職員だけでなく、図書館友の会、公民館の利用サークル団体、学校の校長や学校支援コーディネーター、地域の自治会など、多くの地域の方々が集まって、なかまちテラスまつりを始めとする数々のイベントを企画から運営まで協働で作ってきました。最近では、今年の2月になかまちテラスの来館者が50万人を突破したことを記念して、展示イベントや交流会を開催し、多くの地域の方に参加していただきました。

5月19日・20日には「第4回なかまちテラスまつり」を開催します。昨年は2日間で2千7百人を越える参加がありました。

今年も様々なイベント企画がございますので、ぜひこの機会になかまちテラスへお越しください。なかまちテラスはこれからも地域の皆様の居場所となり、愛着を持っていただける公共施設を目指していきたいと存じます。



来館者50万人記念イベント
特別展示の様子

小平図書館友の会は20歳!! 会員 伊藤規子

小平図書館友の会は、2018年10月をもって設立20年を迎えます。長いような短いような。

20年前の1998年夏、小平市子ども文庫連絡協議会の図書館問題学習会のメンバーが、大人のための会も欲しいねと言い合って、友の会を作ることになりました。その実、図書館友の会というものがどんなものなのか、あまりよく知らなかったのですが。

全国から友の会の会則を探して参考にしました。また、会長には、以前、国立国会図書館にお勤めで、図書館協議会の委員もなさった本間浩先生（当時駿河台大学教授）をお願いすることになりました。突然のお願いを快く引き受けてくださったときにはホッとしたものです。

小平市子ども文庫連協は、図書館でも一目置かれる存在だったという認識から、図書館友の会を作るにあたり、図書館カウンターに友の会会員募集箱を置いてください、とお願いに行きました。ところが、（当然のことながら）断られてしまったのです。まったく別の新しい団体なのだ、信用を得ていくのはこれからなのだ、という思いを強くしました。

1998年10月6日（日）、中央図書館視聴覚室をお借りして、設立総会を行いました。会員数64名でした。それぞれ友人を勧誘したり、家族を入れて「水増し」したりしたものです。

総会の議案書を作ったものの、当日になって予算書の計算が間違っていたり、今思い返せば汗顔のいたりというところでした。記念講演は、本間会長に「ドイツの旅」と題したお話をしていただき、めでたく発足しました。

同年11月には、会報第1号を発行し、「さすがです」と当時の齊藤図書館長にほめていただいて気をよくしたことを覚えています。

翌年5月、第1回の古本市を開催しました。知名度の全くない友の会をなんとかして知ってもらおうと話し合っただけのイベントです。今と違い、図書館前庭で段ボール箱を数箱並べての古本市でした。

その日の売上金は5万6千円ほど。今年の売り上げ額が約30万円ですから、はじまりはささやかなものですが、みんな初めての経験で、楽しかったですね。20年前ですから、20歳は若かったですし、体力もありました。



2000.5.28
第2回青空古本市

売り上げ金から2万円を、小平社協に寄付しました。図書館への寄付（物品寄贈）は大沼図書館が開館になった年に、お祝いとしてラベルプリンターを寄贈したのが始まりです。図書館の物品や資料は、本来、市の予算で買うべきものではないかと役員会で議論もしました。結局は、私たちの図書館が良くなるのだから、市民にとって役にたつのだという結論になりました。「友の会の運営に役立つと思ってたくさんの本を寄付したのに」とおっしゃって、図書館への寄付を疑問に思われた方もいらっしゃった記憶があります。古本市の収益は、友の会の運営費とはまったく別会計にして、今日にいたっています。

友の会の様々な行事、学習会などは、役員会のたびに、今度はなにをしようかと、みんなで話し合っただけです。

図書館について学ぶ会が一番はじめの学習会でした。小平市の図書館条例が改正されるということで勉強を始めたのがきっかけです。レファレンスサービスについてのアンケート調査や、図書館見学にもあちこち伺いました。

障がい者サービス学習会は、点字ボランティアや音読ボランティアの方たちから、どうもあまり活用されていないように思う、との話を伺い、勉強を始めました。小平市身体障害者協会の視覚障害者部会の会合に飛び入り参加し、さまざまな実状を学ぶとともに、視覚障がいの方が5人も入会してくださり、会報や交流紙をボランティア団体に点訳・音訳していただいて届けたりもしています。

そのほか、声に出して本を読む会、YAを楽しむ会、読書サークル・小平の3つの学習会も、会員の声から発足しました。いまではそれぞれに10人前後のメンバーがおり、楽しく活動しています。

バラエティーに富んだ会員の自主的な活動は、小平図書館友の会の魅力のひとつです。

全国に、図書館友の会や類似の団体はたくさんあります。図書館ボランティアの会と、委託問題や図書館建設要望などの図書館運動をきっかけに作られた会が2大潮流でしょうか。小平図書館友の会は、そのどちらというわけではなく、ともかく、図書館が好きで、勉強したり、楽しんだり、必要があれば、図書館への要望を出したり、協力したり、なんでもしたい、という会なのだ、と思っていますし、それがちょっと自慢でもあるのです。



小平図書館友の会の歩み 一過去10年一

講演会 (2009年～2018年)

回	講演日	講演タイトル	講師 (講演当時の肩書き)
17	2009. 5. 17	図書館で情報を探すコツ教えます!	齊藤誠一氏 (千葉経済大学准教授)
18	2010. 7. 17	図書館を使いこなす! 第2弾	齋藤淑子氏 (小平市中央図書館)
19	2010. 9. 12	知られざる小泉八雲	松村恒氏 (大妻女子大学教授)
20	2011. 5. 22	古地図から見えるもの	芳賀啓氏 (株之潮社長)
21	2011. 8. 6	図書館を使いこなす! 第3弾	齋藤淑子氏 (小平市中央図書館)
22	2012. 6. 9	川本三郎の東京町歩き	川本三郎氏 (評論家)
23	2013. 5. 18	地図でたどる多摩の鉄道、今むかし	今尾恵介氏 (地図学者、地図研究者、フリーライター)
24	2013. 9. 28	としょかんからはじまるコミュニティ	川端秀明氏 (「みんなのとしょかん」代表理事)
25	2014. 6. 7	古本蒐集の愉しみ、そして図書館	岡崎武志氏 (書評家、ライター)
26	2014. 9. 27	川本三郎さん、漫画を語る	川本三郎氏 (評論家)
27	2015. 5. 23	こんなに面白い徒然草	谷津矢車氏 (作家)
28	2015. 9. 13	遠野物語から会津物語へ	赤坂憲雄氏 (民俗学者、学習院大学教授)
29	2016. 6. 4	小平市史の魅力を探る	蛭田廣一氏 (小平市中央図書館)
30	2016. 9. 11	広辞苑編集よもやまばなし	平木靖成氏 (辞典編集者)
31	2016. 11. 5	小平の歴史を読む(第1回)	蛭田廣一氏 (小平市中央図書館)
32	2016. 12. 3	小平の歴史を読む(第2回)	蛭田廣一氏 (小平市中央図書館)
33	2016. 12. 17	小平の歴史を読む(第3回)	蛭田廣一氏 (小平市中央図書館)
34	2018. 6. 30	(予定)「男はつらいよ」を旅する	川本三郎氏 (評論家)

文学散歩 (2009年～2018年)

開催日	行き先	開催日	行き先
2009. 6. 13	深川芭蕉コース	2014. 4. 19	早稲田界限
2010. 6. 5	本郷・東京大学界限	2015. 6. 25	明治大学界限
2011. 11. 6	野川周辺	2016. 6. 3	立教大学界限
2012. 6. 24	武者小路実篤記念館ほか	2017. 5. 31	国際基督教大学
2013. 4. 13	林芙美子記念館ほか	2018. 6. 1	(予定)漱石山房記念館

チャリティ古本市寄贈品リスト (2009年～2017年)

回	年	寄贈品
11	2009	小川西町:ブックトラック/仲町:ブックトラック、テプラ/喜平:ブックトラック/上宿:テプラ/ 中央:世界絵本箱 DVD セレクション 5本
12	2010	中央:スライド機/仲町:ブックトラック/大沼:ブックトラック/ 花小金井:デリバリーカート、バスケット 5個/小川西町:マガジンラック/喜平:ナンバリング 2台
13	2011	中央:サインスタンド/小川西町:ブックトラック/喜平:玄関マット/ 【この年から】東日本大震災被災地図書館支援(寄付金)10万円
14	2012	中央:CD プレーヤー、新聞架/花小金井:ディスプレイラック(展示ケース)/小川西町:CD ラジカセ/ 喜平:スキャナー/上宿:デジタルカメラ/津田:テプラ/被災地図書館支援 5万円
15	2013	中央:デジタルカメラ、テプラ/津田:デジタルカメラ/大沼:デジタルカメラ/喜平:テプラ/ 小川西町:シュレッダー、裁断機/花小金井:ブックトラック(両面傾斜 3段)/被災地図書館支援 5万円
16	2014	中央:ローラーカッター/花小金井:パンフレットスタンド/喜平:木製ローチェア 5脚/上宿:裁断機/ 大沼:シュレッダー/被災地図書館支援 5万円
17	2015	中央:タイプライター/仲町:スチールマルチワゴン/花小金井:デジタルカメラ/ 小川西町:カラープリンター/喜平:ブックトラック/津田:車イス/被災地図書館支援 5万円
18	2016	中央:プロジェクター(DVD 映写機)、電子辞書/大沼:ラミネーター/被災地図書館支援 5万円
19	2017	仲町:インクジェットプリンター/花小金井:ブックトラック両面傾斜 3段/小川西町:スチールトラック片面傾 斜 3段/喜平:フリーステップ 3段手すり付き/上宿:電子タイプライター及びリボン/ 被災地図書館支援 5万円

第20回 チャリティ古本市 於:小平市中央公民館

古本市日記

3月20日(火)

今年はいつもの準備期間より半日多くして、本の収集前に会場設営を試みた。



机を運び、並べ、ズレないように足を縛る。壁には簡単な棚を設ける。さらに掲示物を貼っていく。今回は20回の記念開催なので廊下側の案内やPRのデコレーションも華やかに。

3月21日(水)

集本初日。咲き始めた桜も凍えるような春分の日、朝からの雪となった。寄付本の集まりはさすがに出足が鈍い。雪と風の中、会員のFさん宅から昨年の保管本が届く。駐車場とギャラリーを台車で何回も往復して運び入れる。平均年齢70代(?)の会員には重労働。昼食タイムはお疲れ様～。午後は持ち場の本をひたすら並べる作業。16時終了、まだ1日目。



集本日休憩時間
2018.3.22

3月22日(木)

今日は天気が回復。寄付本を持ってきてくれる人が増えてきて忙しくてもうれしい。「こんな本でいいんですか?」と遠慮がちの人、「全巻揃っていますから」「とてもいい本なんです」と大切そうに渡す人、「皆さんで召し上がってください」と差し入れをくださる人…たくさんの善意をありがとうございます。

会場の机はほぼ埋まってきた。たくさんのお手伝い会員があっちこっちと動き回り整理整頓されていく。

3月23日(金)

今日も朝から寄付本が集まってくる。2~3冊の人もしれば台車で2往復の人も。

廊下を行き交う人たちがのぞいて通る。気の早い人は準備中の会場に入ってしまう「まだなんです。明日と明後日お出掛け下さい」とやんわりお断り。

小平市の図書館職員が図書館で使える本を探す。古本に精通した会員が特別価格をチェックする。今年



集本最終日の会場
2018.3.23

もずらりと並んだ会場は壮観。作業は楽ではないけれど市民の役に立っていると実感。いよいよ明日から!準備最終日、ミーティングをして終了。

3月24日(土) 25日(日)

9時から入場整理券を配る。10分前に並んでもらうと中庭をほぼ一周の約150人。10時開場。お目当ての本、掘り出し物の本を求めて通勤ラッシュ並みの会場。熱気ムンムンとはこのこと。3年前から導入した買い物カゴ(スーパーにあるような)を今回は初日午前中の混雑時には使用せず、代わりに布製の買い物バッグを用意した。布製の方が危険がなく好評のようだ。



販売初日開場前の行列
2018.3.24

午後になると来場者数は落ち着いてきてゆっくりと物色できる状態になった。三か所設けた会計も二か所に縮小。お手伝いの会員もホッと一息。どちらかというとも男性客が多い。みんな本が好きそう。

翌日も好天。お花見日和。昨日と違ってゆるりとした滑り出し。じっくりと品定めして選び、嬉し



販売初日の午後
2018.3.24

そうに抱えて帰るお客様方に20回記念のしおりを手渡す。

子ども連れのお父さんは本選びについて夢中。子どもは「おとーさーん」と呼ぶけれど返事なし。やっとお

父さんが会計を済ませて出てくるとやれやれといった顔。

廊下には第10回から昨年19回までの図書館への寄贈品リストを掲示。足を止めて熱心に読んでいく人は多い。皆様のご厚意がこんなに役立っています、とアピール。

読み終わった本を読みたい人へ渡していくお手伝いを続けて20回目。その中で得られた利益は小平市の図書館で活用されまた市民の元へ戻っていくというシステム。「まだまだやめられないね」と古本市ベテランのSさんの言葉。

さて、午後3時に今年の古本市は終了し、来年度に残す本と町田市にある共働学舎という福祉施設に送られる本とを選別そして運搬。これまた相当

の重労働だが、最後の力を振り絞って片づけに専念。ボランティアで来てくれた大学生二人も加わり、午後5時にはギャラリーは元の伽藍洞となった。最後にお疲れ様のお茶を飲み解散となる。



閉場後の片付け
2018. 3. 25

集本数 18,649冊（昨年度の残本を含む）
 入場者数 約1,400人
 作業参加者 44人（会員、他）
 販売冊数 7,908冊
 売上金 304,387円

参加した会員の声



古本市に参加して (会員 植松 正)

年齢を重ねると、テレビより読書に楽しみを見いだす人が多くなっています。そういう私もその一人です。高度経済成長から少子高齢化、成熟社会に移り、ゆっくりとくつろげる時間を人は求めているのかもしれませんが。

さて、今回小平図書館友の会が主催するチャリティ古本市に参加し、雑誌売場を担当しました。

開始して、懐かしい昭和を感じさせる「POPEYE」、「Number」、「サライ」、「鉄道ジャーナル」、「手編み」などが次々と売れました。レトロ、趣味性の高いものに人気があるようです。

自分が探し求めていた本を偶然見つけたとき、人は嬉しいものです。こちらも嬉しくなります。

また、販売する側として、きれいに見せることの大切さも学びました。買いに来る人の立場に立って雑誌をきれいに列べること、いわゆる整理整頓が大事です。雑然とした状態なら、人は雑誌を見ないで素通りしてしまいます。

最後に、会場設営はもとより、集本受付、広報、行事保険、ビニール袋など様々な周到な準備があってこそ古本市の円滑な運営ができることを知りました。古本市を支えるスタッフの方々の熱い思いが私にも伝わってきました。



雑誌コーナー
2018. 3. 25

初めて古本市を手伝って (会員 図師たま代)

友の会の古本市には、ここ数年ずっと“良い本”が安価で手に入ることがうれしくて楽しみに来ておりました。今回初めて会員として会場設営から古本市当日まで参加いたしました。この間2万冊弱のたくさんの本の中に身を置き、大変愉快地に過ごすことができました。自分の日常からは到底縁のないおもしろい本を見つけたり、美しい装丁の本を手にしたたり、また直木賞受賞の本のページを繰った時の“時代の匂い”に包まれたり、本はやっぱりいいなあと思います。また一連の作業中に、あちらこちらからささやかれる“本にまつわる話”が聞こえてくるのも楽しかったです。

本が好きという善良な市井の人たちが、自分たちで組織し運営していること、しかも今回で20回を数えるということはものすごいことではないかと思えます。“同好の士”の集まりに留まらず、市や図書館やらの団体にも関わっていく姿勢も知ることができました。

集本日初日には雪が降り、古本市最終日には「桜が満開！」だとテレビは報じていました。私にとりましても（日々呆けたように過ごしておりますので）めまぐるしくもワクワクした一週間となりました。

思い出の本との再会 (会員 伊藤文代)

久しぶりに参加した古本市で、私は思い出の本と再会した。担当した実用書の隣に特価本のコーナーがあり、何気なく足が向いた。片隅にあったのが、はっとするほど懐かしい二冊の本。森有正著「バビロンの流れのほとりにて」「砂漠に向かて」。過去からずっと現れたように並んでいた。

半世紀ほど前のこと、高校一年生だった私は、学校新聞を発行する委員会に属していた。九月終わりの学園祭の最終日、フィルムを買って委員会室に戻る途中、どさっと重く鈍い音に足を止めた。その後のことは綴るにはあまりに生々しい。同じ委員会の上級生の一人が、親友の自ら選んだ突然の死に打ちひしがれた。以来その上級生と私は衝撃を共有し合い、恐怖や悲しみと戦わんとするかのよう、共に本を読みあさり語り合った。そのほとんどが森有正だったのだ。彼から次から次へと渡される哲学者のエッセイに必死でくらいついて理解しようとしたものだ。

一瞬で脳裏に甦った彼との思い出を反芻しながら、私は本を手にとった。あの頃は背伸びしてい

たなあと、十代の自分が愛おしく思える。しかしパラパラと頁をめくってみると、孤独、絶望、経験、といったキーワードとともにいくつかのフレーズを覚えていることに驚いた。そういえば五十代になって初めて行ったフランスで、パリ在住の森が幾度となく赴き思索の糧としたノートルダム寺院やシャルトル大聖堂を目の当たりにした時も、それらの言葉が浮かんで来て観光とは別の感動があったのを思い出す。若き日に苦労して咀嚼

した言葉の数々と思考のヒントは、そう簡単に消えるものではなさそうだ。

少しばかり惜しむ気持ちはあったものの、本を元の場所に戻した。すたとんと置くと、「過去は過去」という言葉がよぎり、私は持ち場に帰った。しばらくして手が空き、ふと見やると、二冊ともその場から消えていた。誰かが買っていったのか、そのぽっかり空いた場所を見つめ、私はむしろ不思議に爽やかな気分になっていた。

古本探しのベテラン岡崎武志さん、ご来場 …… 岡崎さんが選んだ本は？

～岡崎武志さんは書評家・ライター、2014年6月に古本と図書館をテーマに講演していただきました～

- 単行本■ 澁澤龍彦『記憶の遠近法』大和書房
- 福島泰樹『追憶の風景』晶文社
- エディット・ピアフ自伝(中井多津夫 訳)『わが愛の讃歌』晶文社
- 野呂邦暢『一滴の夏』文藝春秋 『鳥たちの河口』文藝春秋
- 赤瀬川原平編『使い捨て考現学』実業之日本社
- 文庫■ J.R.ヒメネス『ブラデーロとわたし』岩波文庫
- 森茉莉『マリアの空想旅行』ちくま文庫
- 堀田善衛『スペイン430日』ちくま文庫 他14冊



写真:岡崎武志さんのFacebookより
岡崎さんの承諾を得て掲載

講演会予告 2018年6月30日

小平図書館友の会 20周年記念

川本三郎さん講演会

「男はつらいよ」を旅する

2017年に出版された『「男はつらいよ」を旅する』(新潮選書)。

映画「男はつらいよ」全作品を詳細に読み解きながら 北海道知床から沖縄まで 車寅次郎の旅路を追う画期的シネマ紀行。

この本を中心に 寅さんの世界を語っていただきます。

日時 2018年6月30日(土) 13:30～15:30

会場 小平市中央図書館3階 視聴覚室

小平市小川町2-1325

西武多摩湖線「青梅街道」駅下車 徒歩5分

講師 川本三郎さん(評論家)

定員 80人 先着順(申込不要)

※満席になりしだい入場をお断りすることがあります

費用 無料

主催 小平図書館友の会

後援 小平市教育委員会



川本三郎さん プロフィール

1944年東京生まれ。朝日新聞社勤務後独立し評論活動。永井荷風、林芙美子、北原白秋研究で知られる。町歩きや映画の本も多数出版してファンが多い。

学 習 会 報 告

声に出して本を読む会

2004年の小平図書館友の会第7回総会で、友の会活動6年間の蓄積を新たな創造に結びつけようとの本間会長（当時）のご挨拶や、朗読ブームにも触発された会員から、「声に出して本を読むこと」も友の会活動の発展に寄与するのでは、との提起など、多くの励ましの中で誕生。2005年1月、第1回の発表会を開催して以来、年一回、常に10名前後が参加して発表の機会を得、今日に至っています。

その後、様々な出会いや、緊張と反省を織りませながらの発表会と、「友の会20年のあゆみ」の中で、立派な指導者も得て、それなりに進化してきました。

回を重ねる中で、「声に出す」読書である以上、「聴いていただく人への努力と向上」を求め、「ルネこだいら・市民自主公演支援事業」への参加や、2007年3月、友の会10周年記念の節目には、発表会「ことばの玉手箱」を開催し、関係者一同、寄せられたご支援への感謝と共に、これらも一つの成果と受け止めています。

これまでに、活動を支えていただいた素晴らしい先輩の死去など、つらいお別れや、発表技術の難しさに躊躇することもありましたが、昨年10月7日の第13回発表会も、演出等の技術的ご協力を得て、会員それぞれ高揚感を味わいました。これらの経験を大切に、「初心に立ち返った」地道な活動を継続させ、当面、5月19、20日開催の「なかまちテラスまつり（仲町公民館）」では、清水順子さん（会員）の朗読発表（20日）や、11月には、立体的な企画による発表会がもてるよう、準備と演習中です。

これからも、「声に出して本を読む」ことの意義を大切に、友の会のみなさんに支えられ、活動を展開していきます。
（雑崎亮平）

読書サークル・小平

隔月1回、日曜日の午後、主に小平市中央公民館和室で例会を行っています。

会員以外でも参加できます。

— 11月から5月までのテキスト —

■第43回 2017年11月19日
佐伯啓思 著『さらば、民主主義 憲法と日本社会を問いなおす』朝日新書

佐伯啓思 著『反・幸福論』新潮新書

■第44回 2018年1月21日

養老孟司 著『遺言』新潮新書

■第45回 2017年3月18日

日本再建イニシアティブ 編『現代日本の地政学——13のリスクと地政学の時代』中公新書

<予告>

次回日程：5月27日（日）14：00～

場所：中央公民館学習室1

テキスト：本郷和人 著『日本史のツボ』文春新書
2018年1月

磯田道史 著『日本史の内幕——戦国女性の素顔から幕末・近代の謎まで』中公新書 2017年10月

図書館について学ぶ会

ハンディキャップサービスを考える会と
合同で開催されています

昨年度は4月から11月まで「司書」についての勉強会を連続で開催してきました。11月には勉強会のまとめを会報39号に掲載しました。この会報39号に載せた要約が1月開催の図書館協議会の場で少し話題となり、とりあえず要約の要約という形でその場で短い説明を行いました。協議会会長から会報39号に取り上げられている資料類を読んでみないと正否の判断は下せない、次の3月の協議会の席で資料を提出して、資料類について説明してほしいと要望されました。どのような形で提示するか考え、資料類で互いに特に内容の連関が高い資料については目次で頁を示すことにしました。3月の協議会で説明を終えた後、協議会会長から「司書の専門性はこれだけいろいろやっていただいても図書館法の規定になってしまうのですね」というコメントがありました。

図書館協議会マターですので本来塚本一人で対応すべきところを「図書館について学ぶ会」に手助けを頂きました。このため本来の「図書館について学ぶ会」の年間テーマを決めて、企画を実施するといった事には手が回りませんでした。

ハンディキャップサービス交流会は例年通り実施されました。最近ではハンディキャップサービスとし

て使える器具類が多種多様となってきたという感じを受けました。
(塚本健男)

Y A を 楽 し む 会

YAを楽しむ会では、毎月一回集って、二冊の課題本を読んで、読書会をします。課題本は、ティーンエイジャーを対象としたYA（ヤングアダルト）文学です。美味しいお菓子とお茶をいただきながら、自由に発言するアットホームな会です。自由に発言する、というのがこの会の特徴のような気がします。正しい答えを求めず、一人一人がそのやわらかい感性で、自分の感想を語る会です。

そのひと時はさながら、新川和江の「わたしを束ねないで」の詩のようです。一節を引用させていただきます。



わたしを名付けないで
娘という名 妻という名
重々しい母という名でしつらえた座に
坐りきりにさせないでください わたしは風
りんごの木と
泉のありかを知っている風

みなさんと語り合うことで、母であったり、妻であったりする日常の役割の中で忘れかけていた“わたし”が目覚めます。

YAを楽しむ会は、ひとりひとりが“わたし”の言葉で自由に語り合う、そんな会です。

(大山容子)

— 11月から4月までのテキスト —

- 11月『こんとんじいちゃんの裏庭』
村上しいこ 著 小学館
『白いタカ』 エリオット・アーノルド 著
岩波書店
- 12月『スウィングしなけりゃ意味がない』
佐藤亜紀 著 KADOKAWA
- 1月『さよならクリームソーダ』
額賀滯 著 文藝春秋
『紙の博物館』 ケン・リュウ 著 早川書房
- 2月『アンドロイドは電気羊の夢を見るか？』
フィリップ・K・ディック 著 早川書房
『もうひとつのwonder』 パラシオ 著
ほるぷ出版

- 3月『九時の月』 デボラ・エリス 著
さ・え・ら書房
『小やぎのかんむり』 市川朔久子 著 講談社
- 4月『雪と珊瑚と』 梨木果歩 著 角川書店
『透明人間のくつ下』 アレックス・シアラー 著
竹書房

図書館協議会報告

(2017年度下半期)

この下半期の図書館の動きとして目立ったのは、図書館の内装、本棚のサイン、机・椅子とその配置ではないかと思う。昨年度3月末頃始まった図書館グッズの販売も話題作り、あまり図書館を利用しない人への図書館土産によいものだと思っている。図書館グッズ販売を続けるには、カウンターの上に置き、手に取れるようにする必要がある。

以上が昨年度下半期で目立った動きである。

昨年度1-3月の図書館行事を概観してみる。今年度4月から本番開始となったブックスタート事業の準備（5回に分けて読み聞かせボランティア用の講座開設、リハーサルも2回実施予定、健診時に渡す本の準備等）がおそらく一番大規模な行事だったのではないかと思う。学校とのネットワークも保育園・幼稚園から高校・大学迄視野に入れて構築中であり、どのような形になるのか楽しみである。

貸出については1月までの昨年度4月から10か月分の貸出し資料数であるが、総資料数は約127万点となっている。前年同期比約2万3千点の減少となっている。微減ではあるが、この傾向はかなりの期間にわたっており、同傾向にある多摩地域の市と連携して原因と対策を講じる必要が出てくる可能性が高まってきているのかもしれない。図書館に利用登録する人も減少しているのが気になる。

(塚本健男)

会員 随時募集中！！

小平図書館友の会に入会しませんか？
文学散歩、歴史散歩、講演会、他市の友の会との交流会、図書館について学ぶ会、朗読会、読書会、年に一度のチャリティ古本市 など
年会費 おとな1,000円、大学・高校生500円
中学・小学生300円 いつでも入会できます